

柿生文化

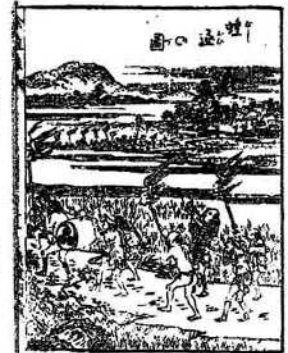
平成23年9月18日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館 情報・研究誌
第40号

復活！「虫送り」神事

麻生区古沢の古沢荘一氏が
古文献をもとに神事を復活

昔、全国的に農村地帯では「害虫駆除」を目的として「虫送り(むしおくり)」の神事が行なわれていました。

この神事は「雨乞い」「風祭り」とともに稲作に関する村全体が取り組む共同祈願のひとつでしたが、近年、薬品による虫の駆除が普及し虫送りの必要性がなくなり、かつては農村にとって重要な年中行事でしたが今日では一部の地域で「芸能」として残されているもののみになりました。



(「除蝗録」：表紙と虫送りの図)

以前は全国的に同じ方法で行なわれ、等身大のわら人形を作って村境まで太鼓や鉦(かね)を鳴らし、踊りながら虫を送ります。さらに村人は松明(たいまつ)を振り回したり、大声をあげたりしながらねり歩いたようです。

麻生区古沢の古沢荘一氏は失われたこの神事を復活させようと江戸時代の農学者である大蔵永常の「除蝗録(じょこうろく：「蝗」は虫の「けり」のこと)」を参考に数年前に「虫送りを」復活させました。この「除蝗録」を読んでいますと、神事というより実質的な害虫駆除の役割を果たしていることに気がきます。それは水田の稲をホウキのよう



(「除蝗録」：松明での害虫駆除の様子)

なもので揺さぶり害虫を追いだし松明の火で焼いたり、松明の明かりに寄ってきた害虫を焼いたりしたようです。あるいは鯨油を田に流し込み害虫を駆除したということも書かれています。



(説明をされる古沢荘一氏)



(地域の方々で行なわれる虫送り)

先日、7月31日夕方近くより大人・子供あわせて20数名ほどが参加し、古沢さんの農園を出発、「除蝗録」に描かれているものと同様の隊列で轆(のぼり)を手に持ち、太鼓や鉦を叩き、虫除けと豊作を願う唄を唄いながら田を2周ほど練り歩きました。

終了後は、地域でとれた作物で調理された惣菜をほおぼりながら、皆さん楽しく昔の郷土の年中行事について会話をはずませてもらっていました。

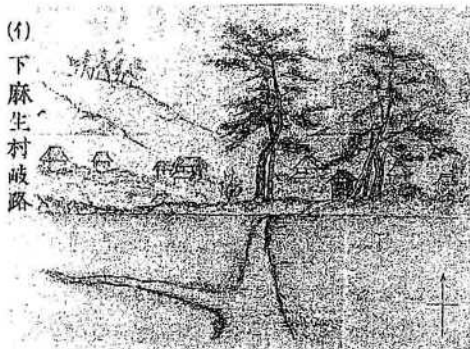
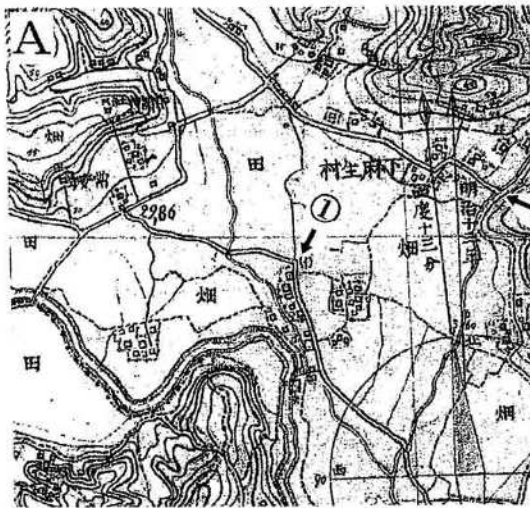
130年前の柿生の姿 フランス式(明治14年) 迅速測図を見る

—— 江戸時代末期の姿を彷彿とさせる ——

下の地図は、明治14年(1881年)に完成した「陸軍迅速測図」です。明治10年に起きた西南戦争の際、戦闘用の地図がなく、正確な地図の必要性を痛感した明治政府が明治13年より縮尺2万分の1の全国の地形図を作成することになりました。

地図は、彩色で地域のスケッチなども描かれています。というのも、明治初期の陸軍は幕府陸軍が範としていたフランスの軍制をそのまま引き継いでいたためフランス式の地図作成が行なわれたため大変美しい地図となりました。しかし、その後軍制全般がドイツ方式にかわったことにより地図も無彩色のものになってしまいました。

「柿生文化」ではカラーでお見せできないのが残念ですが今回は、麻生・王禅寺・早野の地域を中心とした地域の姿を紹介いたします。地図Aは明治14年測量、地図Bは平成17年測量のものです。下のスケッチの場所は現在の横浜上麻生線道路の下麻生交差点付近(クリエト嘴)より東柿生小学校方面に向けて描いたものです。約130年前の下麻生2・3丁目付近です。前方左側に薄く見える山は月読神社あたりでしょうか。地図中①は下麻生交差点付近で、(イ)とAの地図上に記入されています。写真はスケッチとほぼ同じ位置から撮影しました。②は早野と王禅寺の境の石橋付近で、写真は王禅寺方面に向かって撮影しました。



明治14年の姿 (森の方へ直進するとやがて右に現在の東柿生小) ※当時の人がスケッチしたもの (道路左に曲がると月読神社正面近くに行く) (左奥の山は月読神社付近か?)

(次ページへ続く)

(前ページより)



①現在の下麻生交差点 (写真の手前右がクリエイト)
(直進すると右に東柿生小学校)
(左にカーブすると上麻生方面)



②現在の石橋交差点 (左折すると左に東柿生郵便局)
(直進すると琴平神社・王禅寺方面)

土器と火起こしで縄文時代を体感する

—— 夏休み特別企画 ——

夏休み中の8月4日、小中学生対象で「体感 縄文時代」をテーマに体験型子ども講座が開かれました。

はじめに、縄文土器や石器に触れながら縄文時代の人々の生活の様子を考えてみました。石器の材料である黒耀石の流通ルート等については子供たちも大変驚いた様子でした。



火起こし体験については支援員の方々のアドバイスを受けながら全員、煙までは出すことができました。

過去の大地震から地震災害の状況と

防災の在り方を考えました

—— 第7回ガイドセミナー ——

8月27日には地球の構造と地震のメカニズムや江戸時代末の安政大地震や関東大震災の被害の状況について考え、ま



とめとして、いつか到来するであろう大地震への対応や家族確認事項、非常持ち出し品、地震後の連絡方法など具体的なわたしたちの動きについて考えました。

第8回 ガイドセミナー

「大地震の予兆と心構え」

関東大震災前 柿生にナマズが大発生! 大地震前に何かが起こる

- 日 時
- 会 場
- 内 容

9月18日(日) 午前10時より
柿生郷土史料館 (柿生中学校内)
過去の大地震から地震の予兆現象を考える。

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前10時
閉館：午後3時

9月 4日(日)
9月11日(日)
9月18日(日)
9月25日(日)

10月15日(土)→鞋中野-
加ルチャーS10月22日(土)
10月29日(土)

※10月1日(土)と8日(土)は企画展
準備のため休館とします。

柿生郷土史料館の9・10月の催物 (特別企画展) ※ 問い合わせ 988-0004 (鞋中野)

第3回 特別企画展

■テーマ 「瓦版と新聞 江戸・東京の大地震」
で見える
■期 日 9月(日曜) ←最終

第4回 特別企画展

■テーマ 「柿生・岡上の古民具と信仰」
■期 日 10月(15日より：土曜)・11月(日曜)・12月(土曜)
■内 容 現在郷土史料館に所蔵、寄託されている郷土の民具を公開。古くからの信仰に関する民具も紹介します。

第8回 ガイドセミナー (特別企画展対応)

□テーマ 「大地震の予兆」
□講師 柿生郷土史料館支援委員
□期 日 9月18日(日) 午前10時より
□内 容 過去の大地震から分かる予兆現象を徹底追究

第29回 カルチャーセミナー

●テーマ 「お江(ごう)の時代と王禅寺お化粧料」
●講師 村上直氏 (法政大学名誉教授)
●期 日 9月25日(日) 14時～ ●会場 柿生郷土史料館内
●内 容 徳川2代将軍秀忠の正室「お江(ごう)の方」のお化粧料の地があった王禅寺周辺の江戸時代初期の姿を浮き彫りにする。

第30回 カルチャーセミナー

○テーマ 「中世の柿生・岡上～鎌倉時代の姿～」(仮題)
○講師 中西望介氏 (郷土史家)
○期 日 10月22日(土)